

平成 30 年度
「富山県の中山間地域における
集落の生活状況等に関する実態調査」
結果概要

平成 30 年 11 月
富山県地域振興課

I 調査概要

1 調査の目的

富山県内の中山間地域における集落の現状・抱える課題等を把握し、今後の中山間地域における集落機能の維持・活性化に向けた対策の基礎資料とすることを目的とする。

2 調査対象等

(1) 対象者

県内の中山間地域(※1)に位置する全集落(※2)の自治会長等代表者

※1: 本県に該当する以下の地域振興法に基づく指定地域に、中山間地域等直接支払制度に基づく知事特認地域を加えた範囲

指定地域名	法律名等
特定農山村地域	特定農山村地域における農林業等の活性化のための基盤整備の促進に関する法律
振興山村地域	山村振興法
過疎地域	過疎地域自立促進特別措置法
半島振興対策実施地域	半島振興法
知事特認地域	中山間地域等直接支払制度

(該当自治体は射水市、入善町、舟橋村を除く12市町の一部又は全部)

※2: 「集落」については、明確な定義がないことから、今回の調査においては、住民等によって組織された一定のまとまりがある地域自治のための任意団体(地縁団体)で自治会長・町内会長・総代・区長等の代表が存在するものを対象とした(調査対象:1299集落)。

(2) 調査する内容

集落(地域)の現状や課題等について、アンケートを実施

(以下の7カテゴリ、全30問設定。 ※本概要版には、下線箇所の回答のみ掲載。順不同)

○生活環境について

- ①集落内施設の状況
- ②日用生活品の購入方法
- ③集会所の活用の状況
- ④空き家等の状況
- ⑤空き家等の所有者の把握の状況
- ⑥高齢者の主な移動手段
- ⑦高齢者のため、今後充実してほしい移動手段

○支え合いについて

- ⑧高齢者だけで住んでいる世帯の状況
- ⑨独居高齢者などの安否確認の状況
- ⑩独居高齢者などの安否確認等の継続に必要なもの

○魅力・誇りについて

- ⑪集落に対する愛着や誇り
- ⑫集落で誇れるものや自慢できるもの

○農業について

- ⑬地域農業を支える「担い手」の状況
- ⑭農地の維持・管理の状況
- ⑮農業を維持・振興に必要なもの

○集落活動について

- ⑯地域活動の状況
- ⑰地域活動の継続の可能性
- ⑱集落活動における近隣集落等との連携状況
- ⑲移住者の受入実績
- ⑳集落での移住者受入への考え

○集落の今後について

- ㉑集落での話し合いの状況
- ㉒「集落の将来」についての話し合いの状況
- ㉓今後(おおよそ20年後)の集落の予測
- ㉔20年後の集落の展望【自由記載】
- ㉕そのための処方箋等【自由記載】
- ㉖将来のリーダー候補
- ㉗集落活性化への取組状況
- ㉘集落活性化の取組に必要なもの

○集落の課題等について

- ㉙現在の生活上の問題等
- ㉚集落や地域における課題【自由記載】

(3)調査方法

- ①配布方法 市町広報ルート、自治振興会等の集まり、直接郵送する方法などにより、調査票(アンケート)を集落の代表者に配布し、回答を依頼
- ②回収方法 回答後の調査票は、郵送等により回収
- ③調査期間 平成30年6月14日～8月末

(備考)

- ・ 調査結果は百分率で表示し、小数第2位を四捨五入し算出(合計値が100.0%にならない場合あり)
- ・ 1つの質問に対して2つ以上の回答を求めているものは【MA】(Multiple Answer: 複数回答)と表示し、百分率は回答数を本調査の有効回答者数で割った数値
- ・ 図表中に「N」と記してあるのは、分類別各層の対象者総数

Ⅱ 主な調査結果

1 回答者の属性等

(1) 回答状況

図 1-1 回答全体に対する市町割合 N=1,001

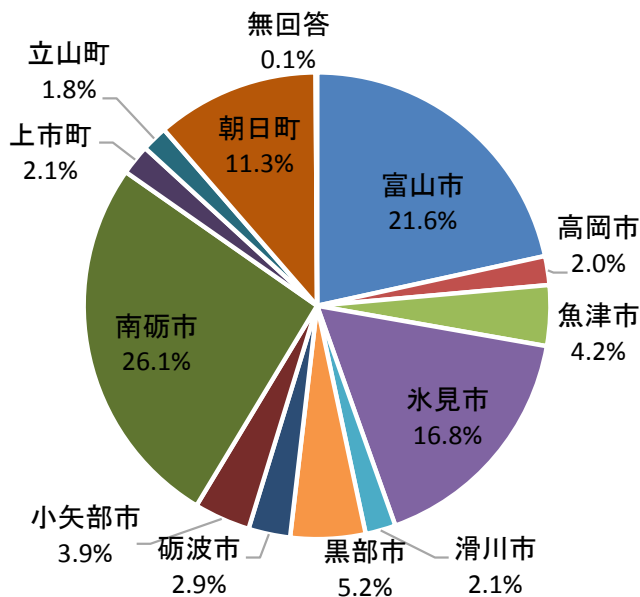


表 1-1 回答状況

市町名	集落数	回答数	回収率
富山市	282	216	76.6%
高岡市	21	20	95.2%
魚津市	61	42	68.9%
氷見市	228	168	73.7%
滑川市	21	21	100.0%
黒部市	68	52	76.5%
砺波市	41	29	70.7%
小矢部市	50	39	78.0%
南砺市	353	261	73.9%
上市町	29	21	72.4%
立山町	28	18	64.3%
朝日町	117	113	96.6%
無回答		1	
計	1,299	1,001	77.1%

※ 無回答は自治体名等の記載がなかったもの

(2) 地域区分構成

図 2-1 地域区分構成割合 N=1,001

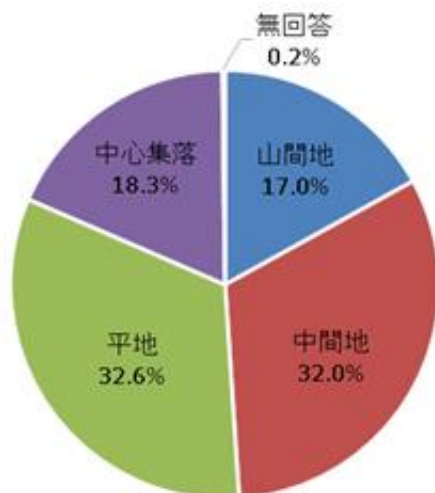


表 2-1 地域区分構成

地域区分	集落数	構成比
山間地	170	17.0%
中間地	320	32.0%
平地	326	32.6%
中心集落	183	18.3%
無回答	2	0.2%
計	1,001	100.0%

【(参考)地域区分】

- 山間地: 林野率が 80%以上、耕地率が 10%未満の地域
- 中間地: 平地と山間地との中間的な地域であり、林野率は主に 50%~80%で、耕地は傾斜地が多い地域
- 平地: 耕地率 20%以上、林野率が 50%未満、または 50%以上であるが平坦な耕地が中心の地域
- 中心集落: 人口密度が 500 人/k㎡以上、DID(人口集中地区)面積が、可住地 5%以上を占める等、都市的な集積が進んでいる地域(農業地域類型の「都市的地域」のこと)

(3) 回答者の属性

図 3-1 自治会長等の経験年数 N=1,001

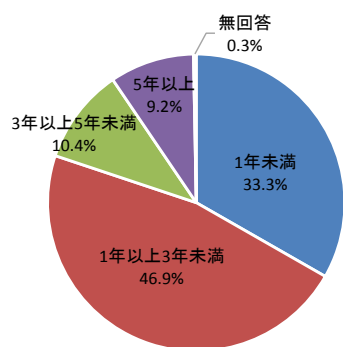


表 3-1 自治会長等の経験年数

経験年数	回答数	割合
1年未満	333	33.3%
1年以上3年未満	469	46.9%
3年以上5年未満	104	10.4%
5年以上	92	9.2%
無回答	3	0.3%
計	1,001	100.0%

図 3-2 性別 N=1,001

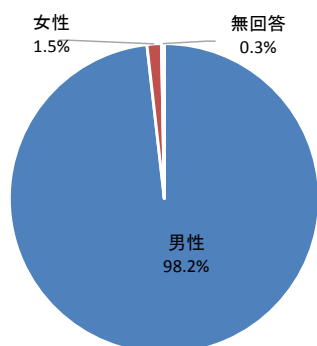


表 3-2 性別

	回答数	割合
男性	983	98.2%
女性	15	1.5%
無回答	3	0.3%
計	1,001	100.0%

図 3-3 年代 N=1,001

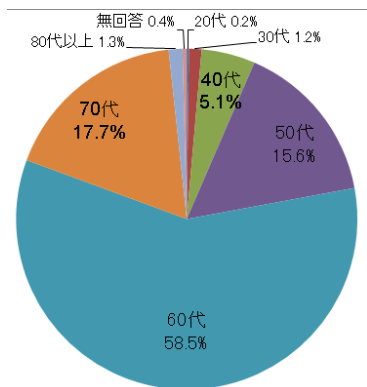


表 3-3 年代

	回答数	割合
20代	2	0.2%
30代	12	1.2%
40代	51	5.1%
50代	156	15.6%
60代	586	58.5%
70代	177	17.7%
80代以上	13	1.3%
無回答	4	0.4%
計	1,001	100.0%

図 3-4 職業 N=1,001

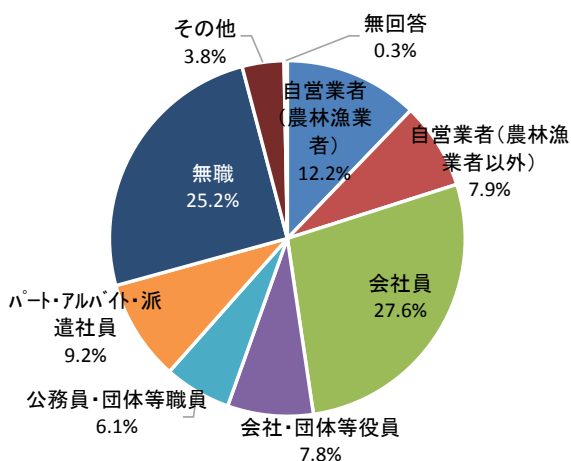


表 3-4 職業

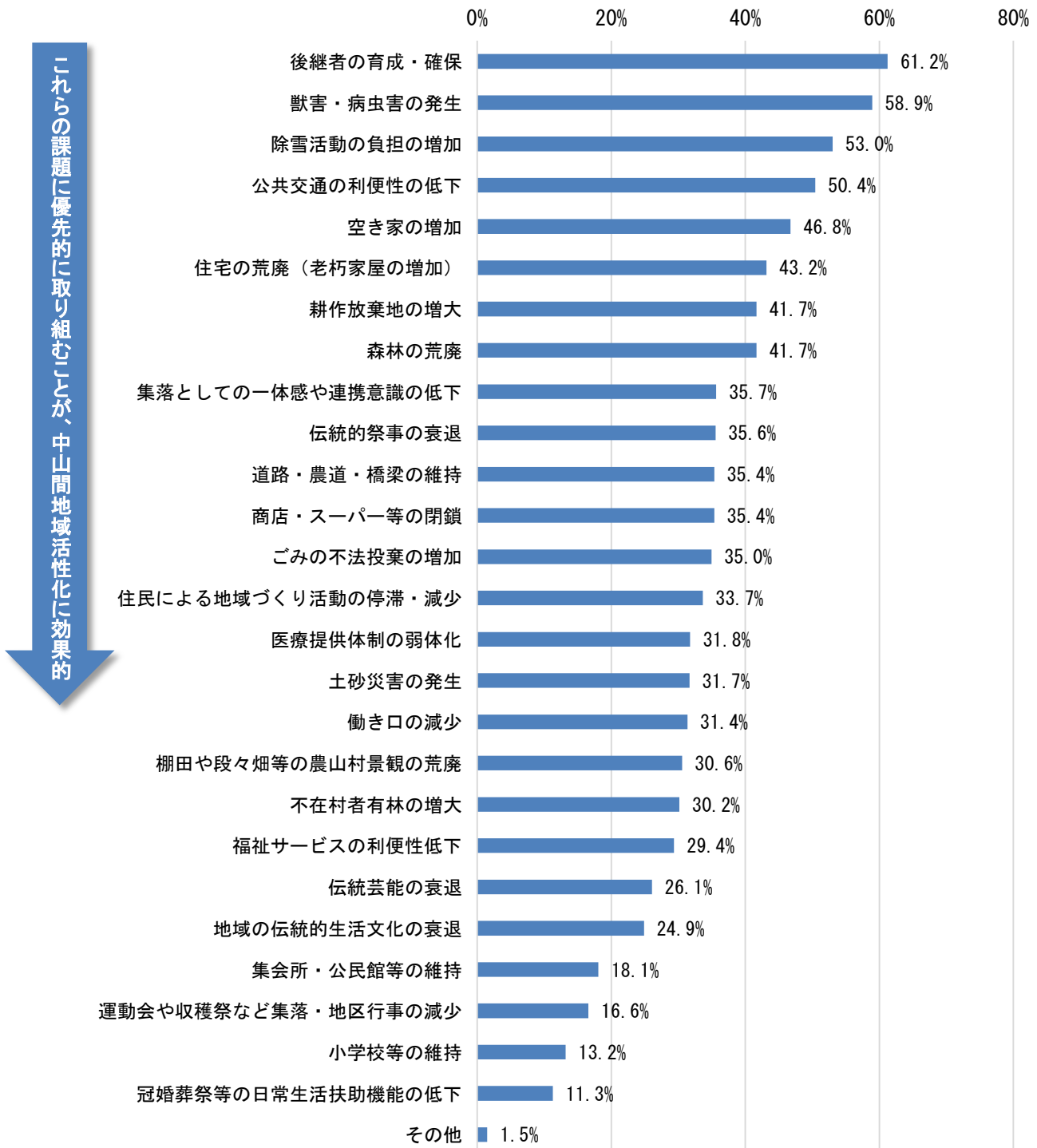
職種	回答数	割合
自営業者(農林漁業者)	122	12.2%
自営業者(農林漁業者以外)	79	7.9%
会社員	276	27.6%
会社・団体等役員	78	7.8%
公務員・団体等職員	61	6.1%
パート・アルバイト・派遣社員	92	9.2%
無職	252	25.2%
その他	38	3.8%
無回答	3	0.3%
計	1,001	100.0%

2 主な調査結果

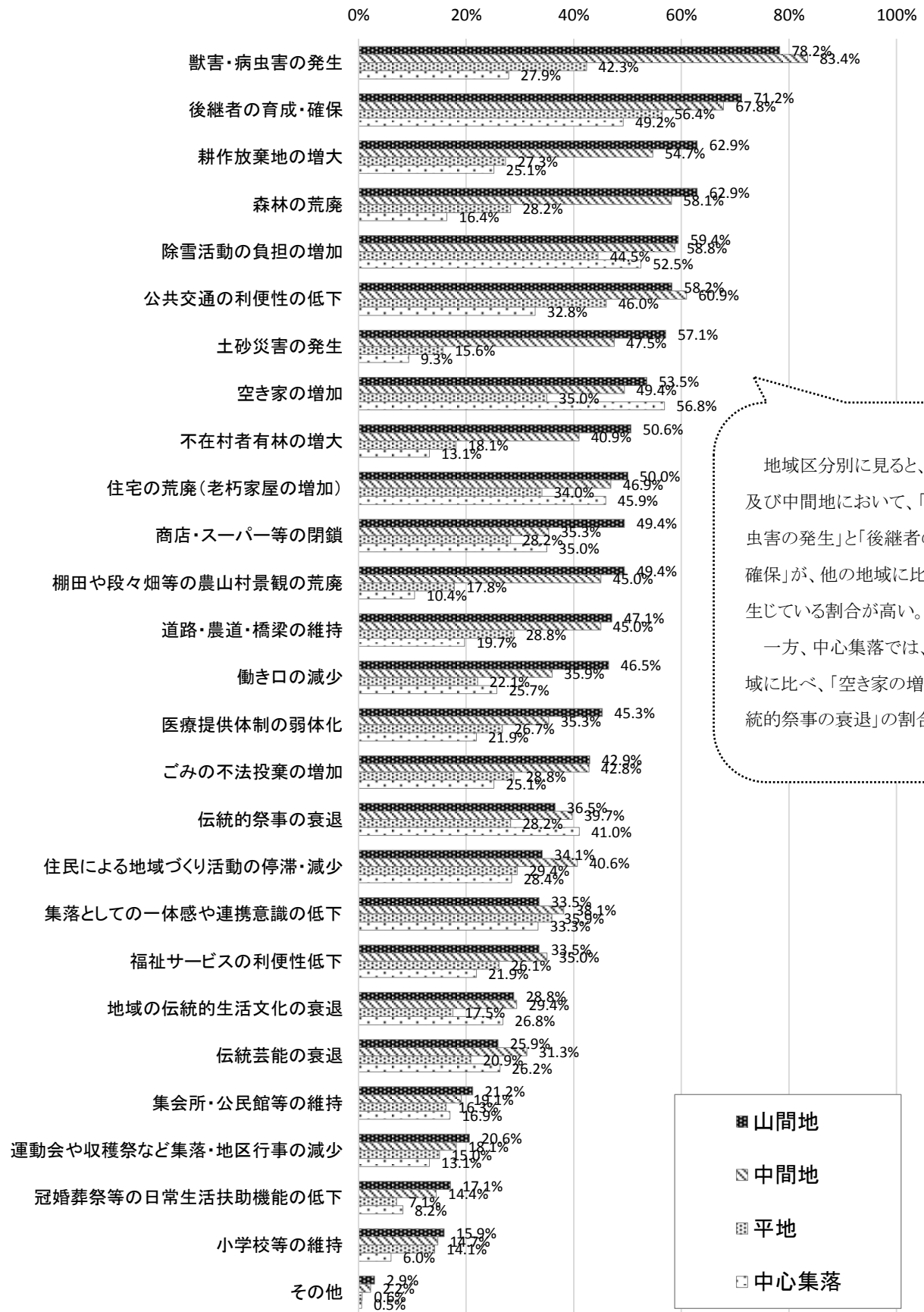
(1) 集落の課題等について

①暮らしにおいて困難が生じていること(困難と回答した数の多い順)

全集落内において困難が生じている課題は、「後継者の育成・確保」が61.2%と最も多く、次いで「獣害・病虫害の発生」が、58.9%、「除雪活動の負担の増加」が53.0%となった。



②暮らしにおいて困難が生じていること(地域区分別)



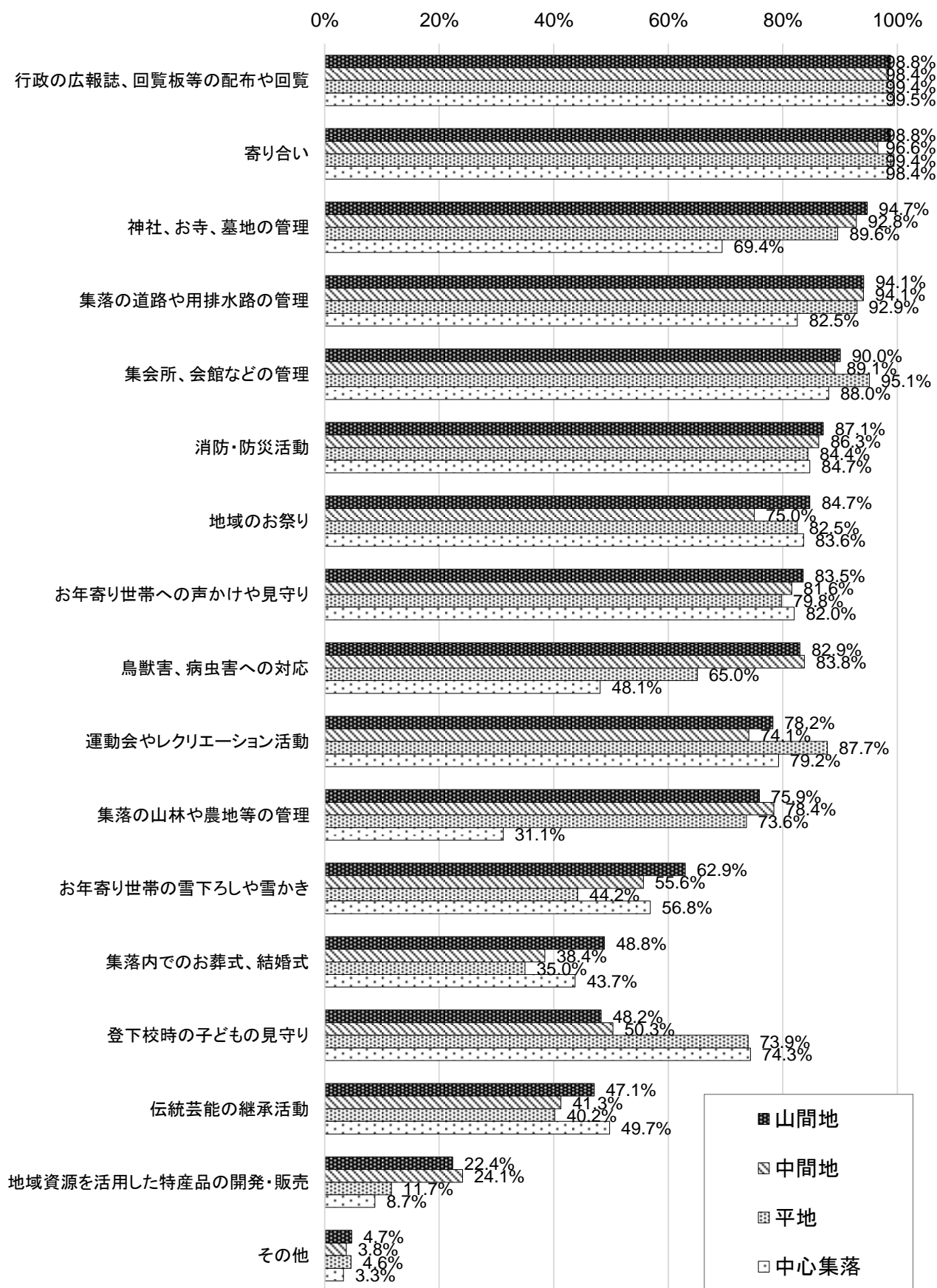
地域区別に見ると、山間地及び中間地において、「獣害・病虫害の発生」と「後継者の育成・確保」が、他の地域に比べ困難を生じている割合が高い。

一方、中心集落では、他の地域に比べ、「空き家の増加」や「伝統的祭事の衰退」の割合が高い。

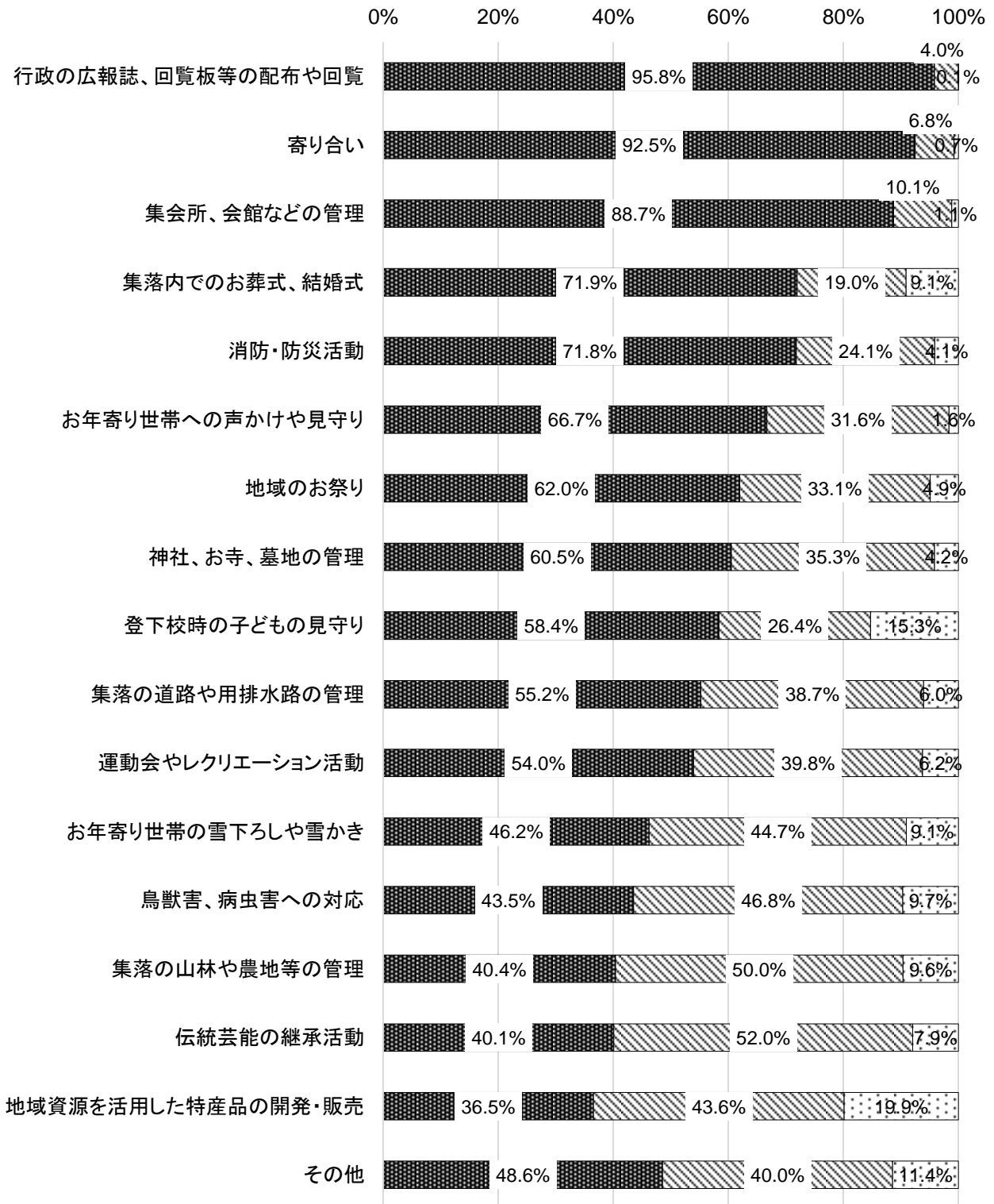


(2) 集落の活動について

① 現在行っている地域活動の内訳



②地域活動の継続の可能性(①で「現在行っている」と回答したもの) N=1,001

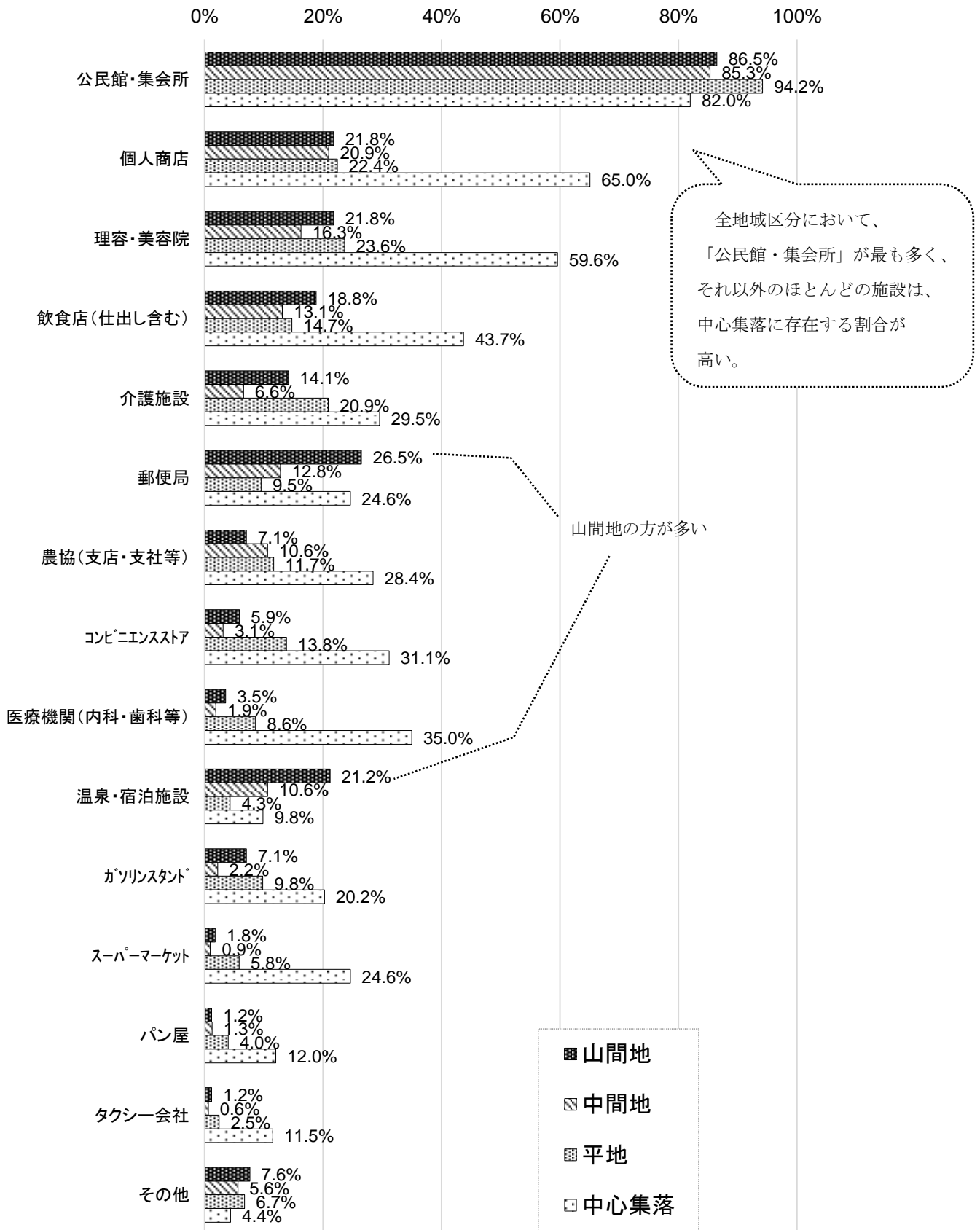


■可能である □不安である □困難である

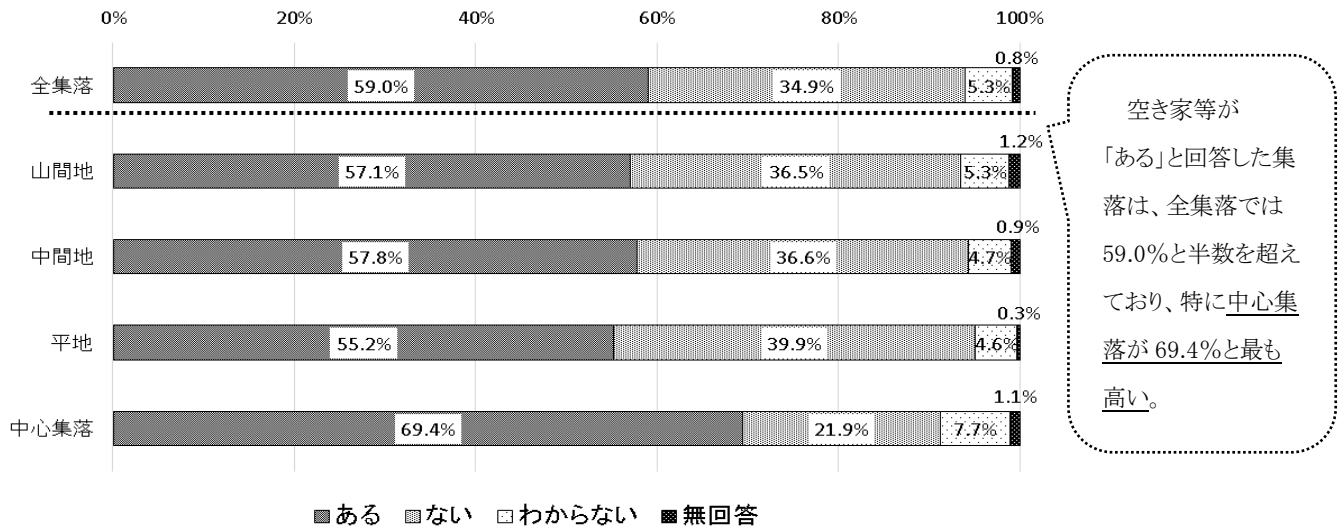
現在行っているが、
継続が「不安」・「困難」とした比率が多い項目について、
優先的な対応等が必要

(3) 集落の生活環境について

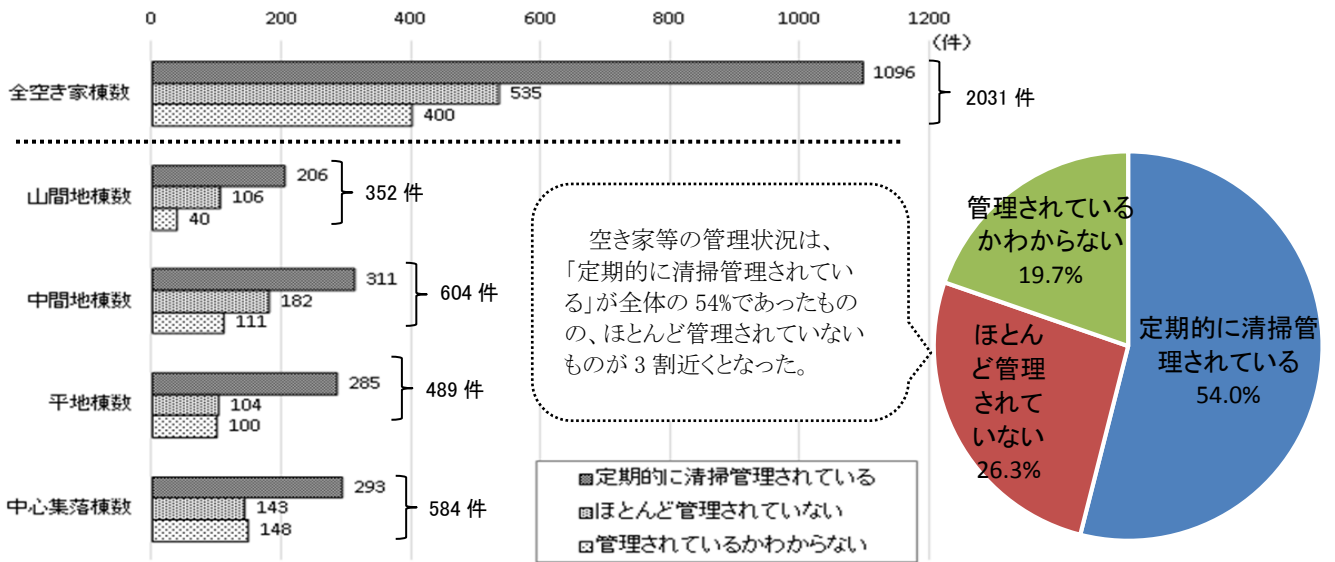
① 集落内施設の状況(あると回答した割合)【MA】



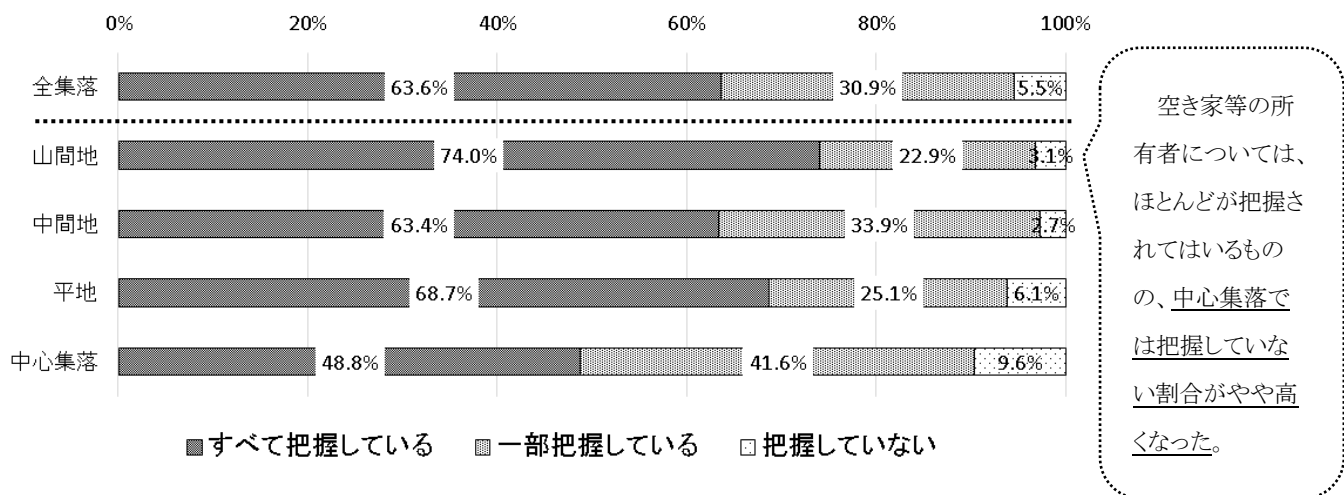
②空き家や空き店舗（以下「空き家等」）の有無【おおむね 3 年以内に発生したもの】 N=1,001



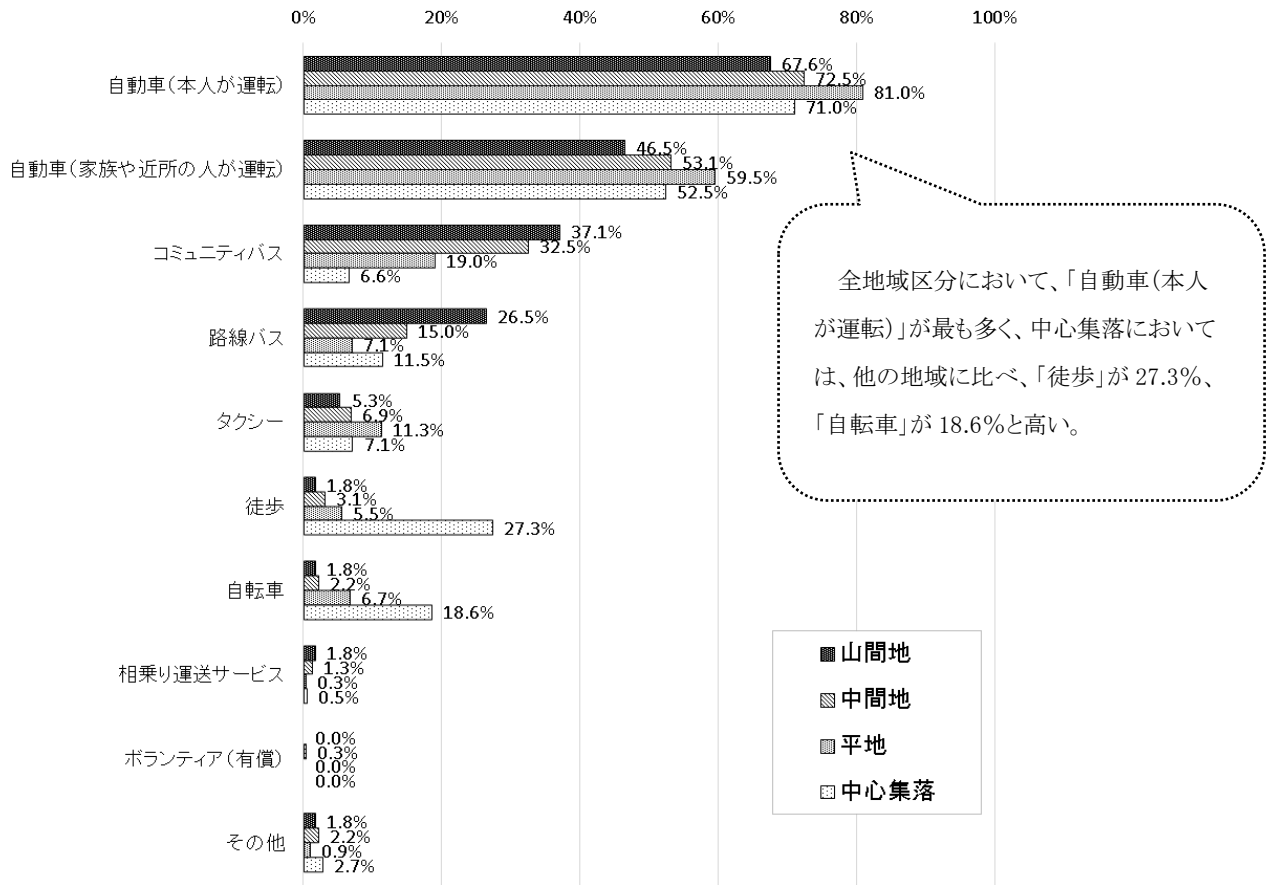
③空き家等の管理状況及び件数



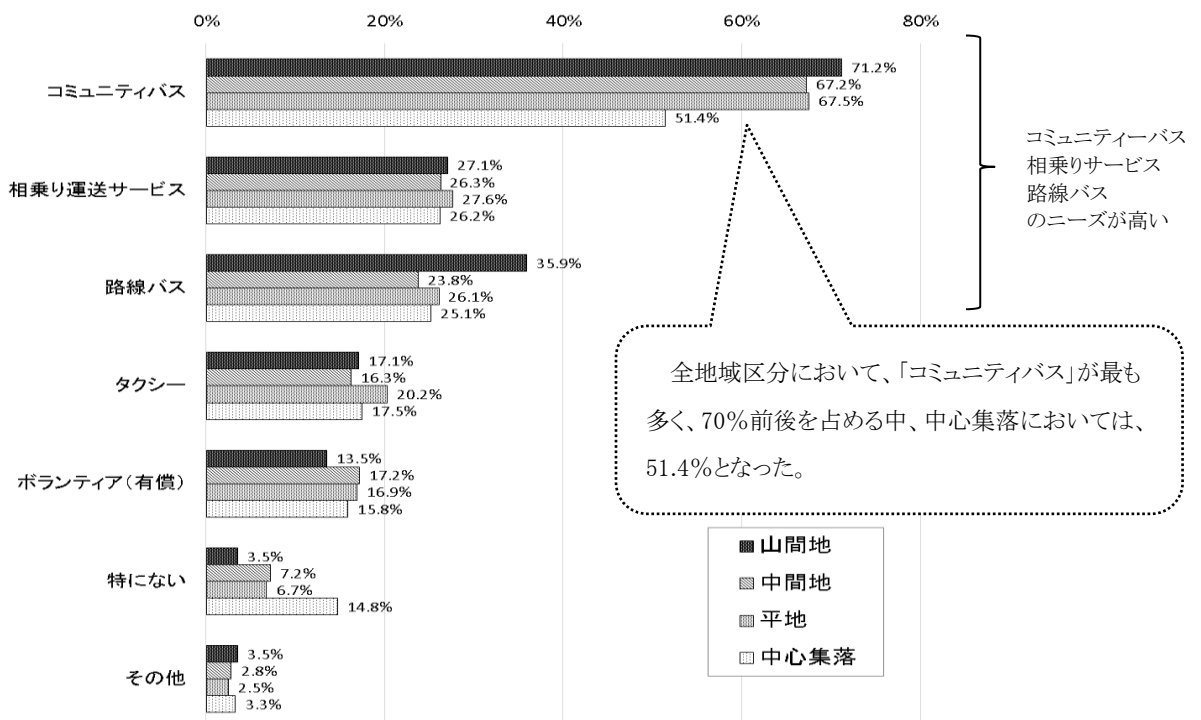
④空き家等の所有者の把握状況



⑤高齢者(概ね75歳以上の方)の主な移動手段【MA】

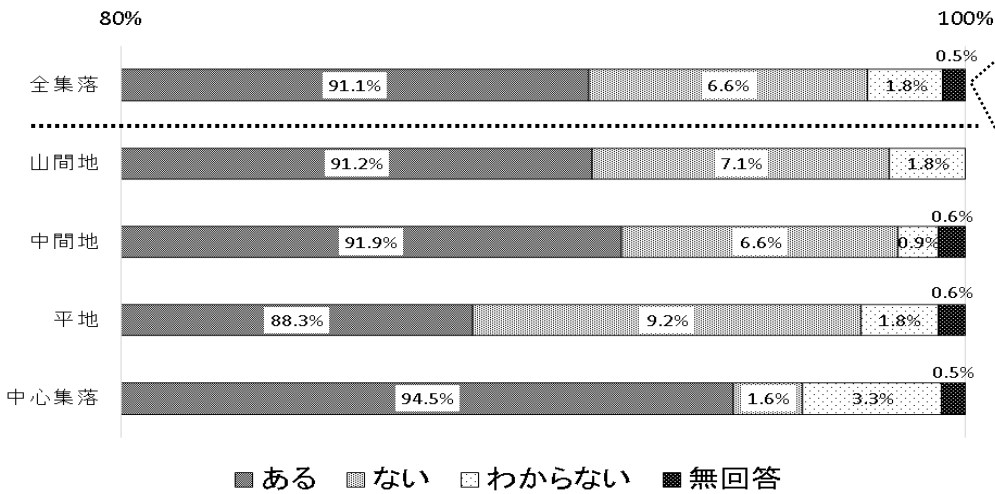


⑥高齢者が出かける際に今後充実してほしい移動手段【MA】



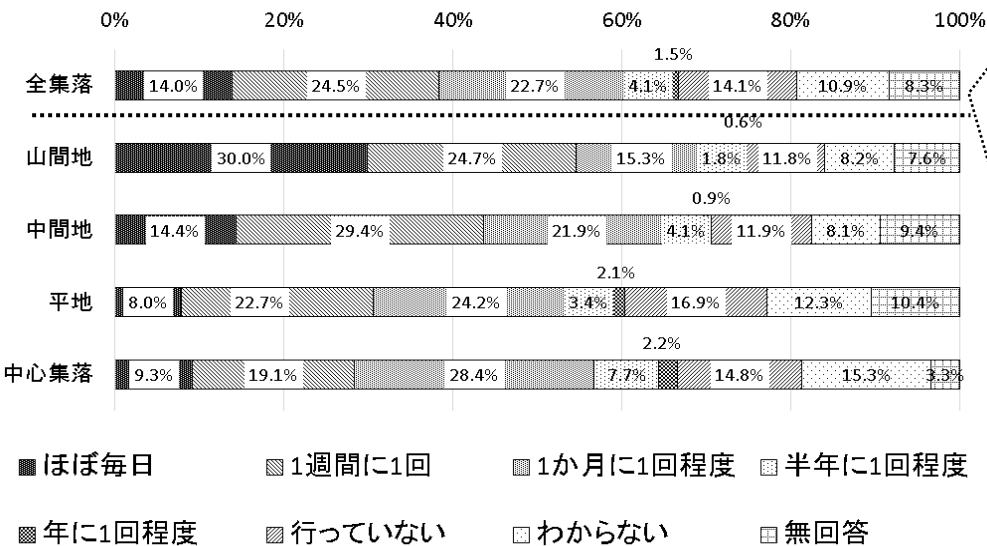
(4) 集落における「支え合い」について

① 高齢者だけの世帯の有無 N=1,001



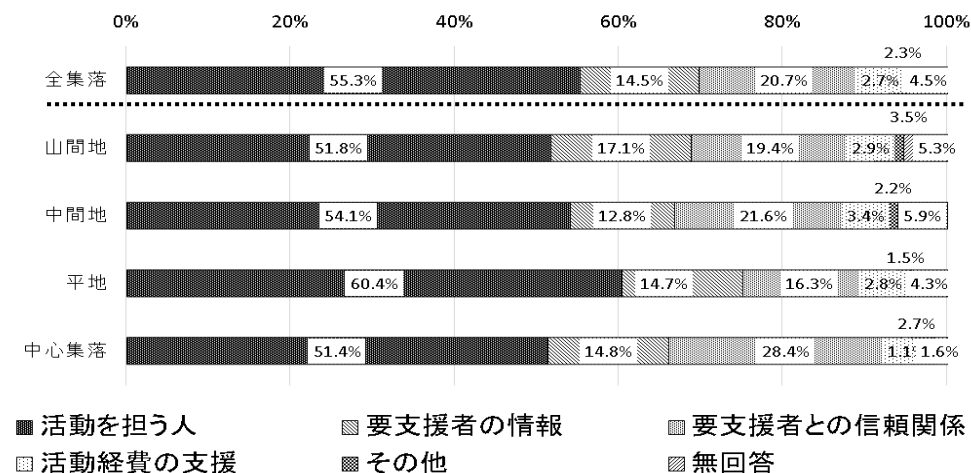
全集落では、「ある」との回答が91.1%と、高い割合となり、地域区分別に見ると、「ある」との回答は、中心集落が94.5%と最も高く、平地では88.3%と最も低くなった。

② 高齢者安否確認の頻度 N=1,001



全集落では、「1週間に1回」が24.5%と最も多く、ついで「1か月に1回程度」22.7%に対し、「行っていない」、「わからない」が25.0%となった。
また、地域区分別に見ると、山間地において、「ほぼ毎日」が30.0%、「1週間に1回」が24.7%と、合わせて半数以上を越え、頻繁に安否確認を行っている。

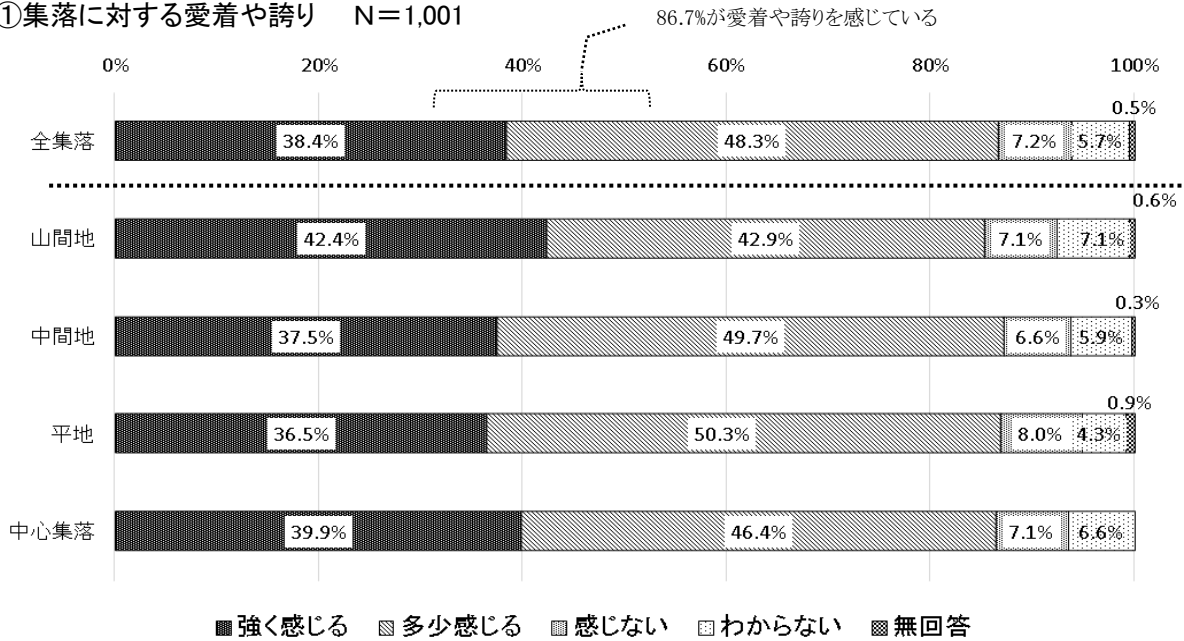
③ 高齢者安否確認の継続に必要なもの N=1,001



全集落では、「活動を担う人」が55.3%と最も多く、ついで「要支援者との信頼関係」が20.7%、「要支援者の情報」14.5%となった。また、地域区分別に見ると、全地域区分別において、「活動を担う人」が最も多く、次いで「要支援者との信頼関係」、「要支援者の情報」の順となった。

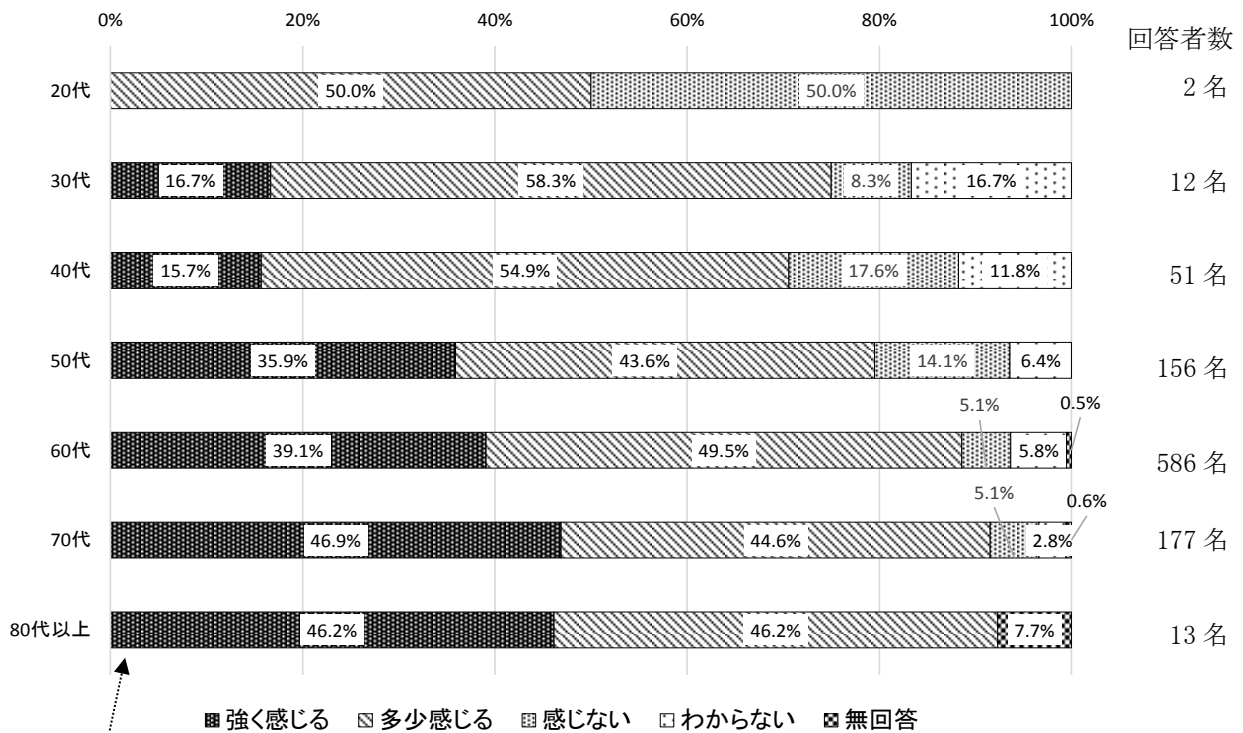
(5) 集落の魅力や誇りについて

① 集落に対する愛着や誇り N=1,001



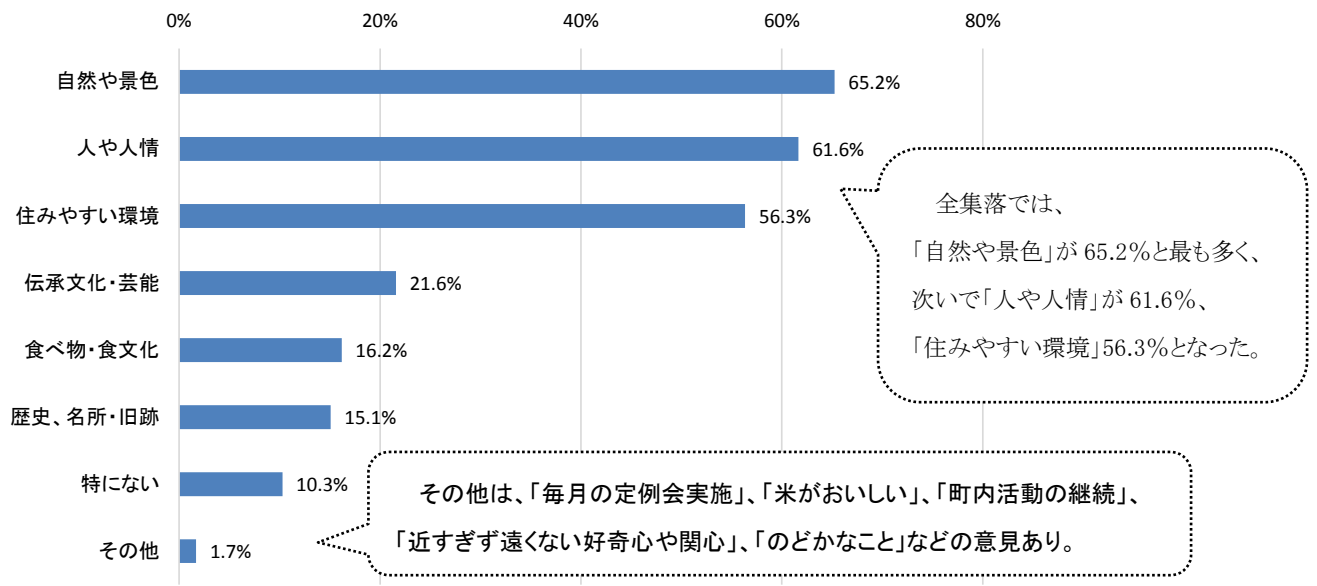
全集落では、「多少感じる」が48.3%と最も多く、ついで「強く感じる」が38.4%の一方で、「感じない」は7.2%となった。また、地域区分別に見ると、全地域区分において、「強く感じる」、「多少感じる」の計が80%を越える高い値となった。一方、回答者の年代別に見ると、「強く感じる」の値に大きな差が生じている。(世代別の回答者数に偏りがあるので参考値として表示)

【参考：集落に対する愛着や誇り(回答者世代別)】

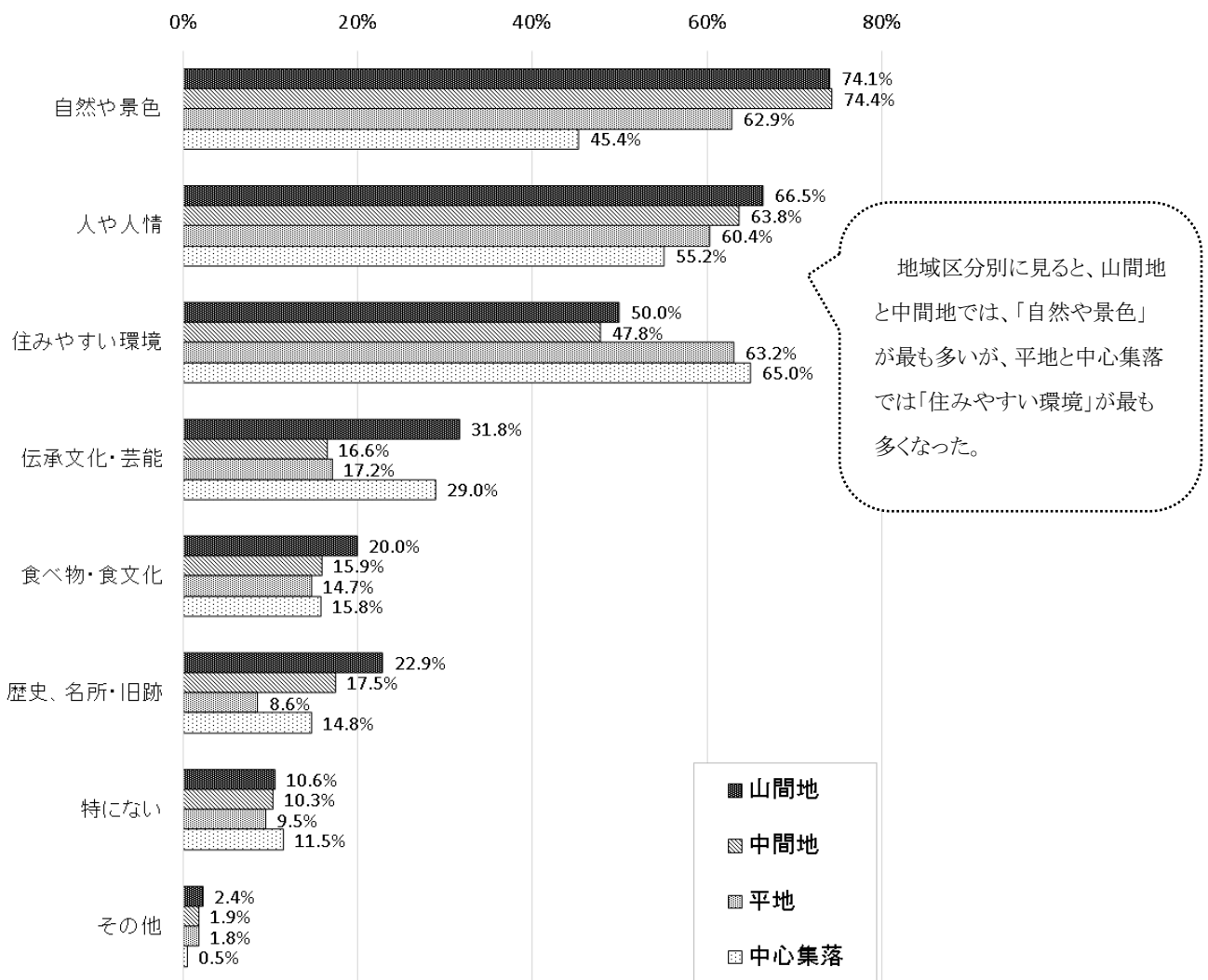


年配の方ほど
愛着を感じている

② 集落内の自慢・誇れるもの(全集落)【MA】 N=1,001

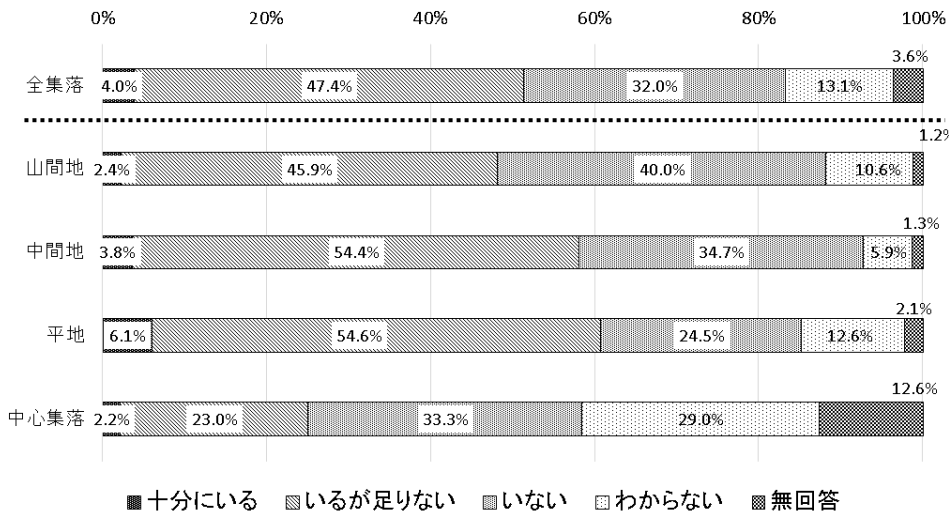


③ 集落内の自慢・誇れるもの(地域区分別)【MA】



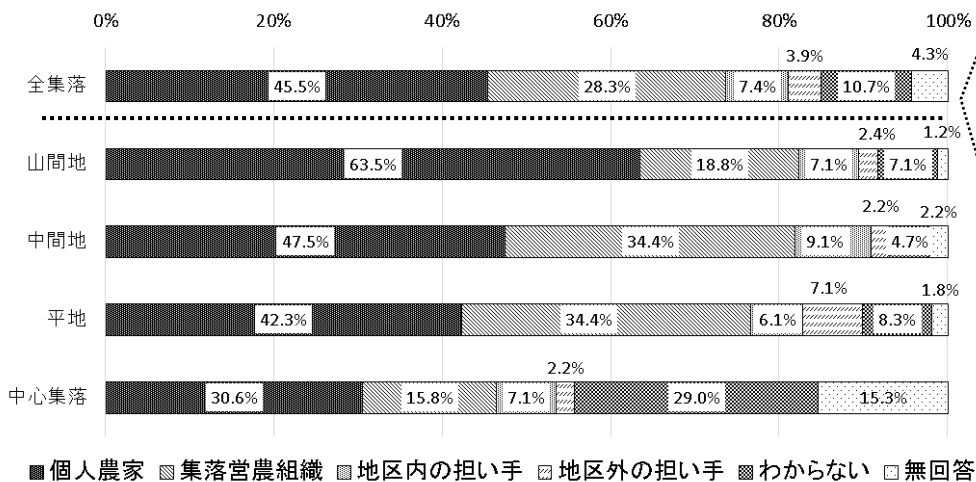
(6) 農業について

①地域の農業を支える担い手の有無 N=1,001



全集落では、「十分にいる」が、わずか4.0%と少なく、「いるが足りない」と「いない」で8割を占める。また、地域区別では中心集落以外において、「いるが足りない」が最も多く、次いで「いない」の順となった。

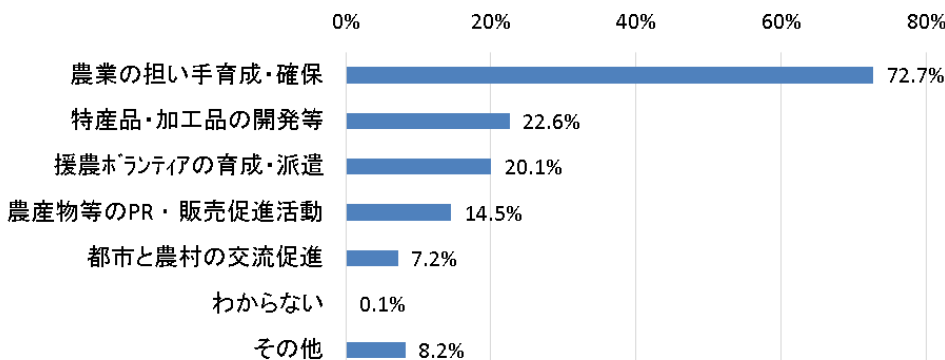
②農地の維持・管理を行う人 N=1,001



全集落では、「個人農家」が45.5%と最も多く、ついで「集落営農組織」28.3%、「地区内の担い手」7.4%となった。

地域区別では、山間地において、「個人農家」が63.5%と半数を超え、他の地域区分においても「個人農家」が最も多くなった。

③農業の維持・管理に必要なもの【MA】 N=1,001



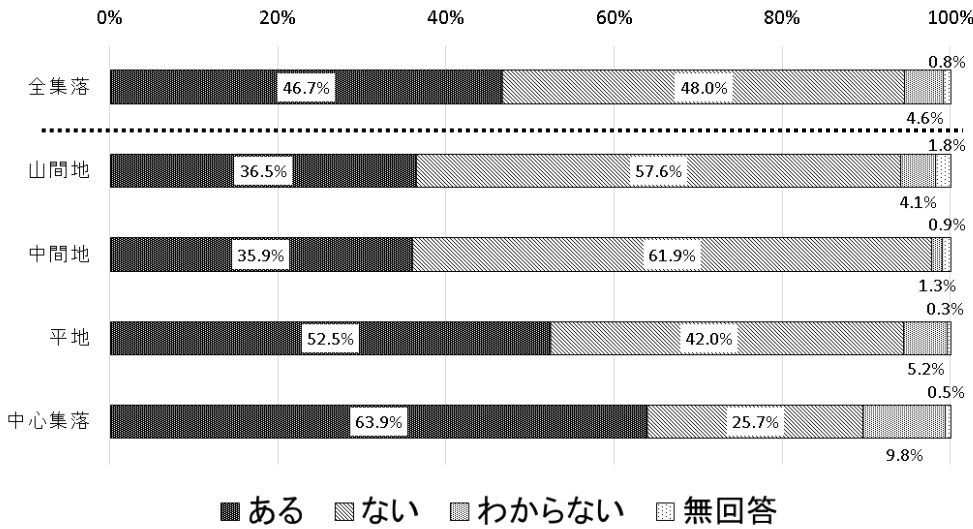
全集落では、「農業の担い手育成・確保」が72.7%と最も多く、次いで「特産品・加工品開発等」22.6%、「援農ボランティアの育成・派遣」20.1%となった。

地域区別では、全地域区分において、「農業の担い手育成・確保」が最も多く、中心集落を除き、7割以上の高い割合となった。

<主なもの(上位3つ)>
 ・農業用施設の維持費用軽減等支援(18件)
 ・農業所得向上指導・支援(14件)
 ・有害鳥獣対策(11件)

(7) 移住者受け入れについて

① 移住者の受け入れ実績(過去5年間) N=1,001



全集落では、移住者の受け入れが「ある」は46.7%で、「ない」は48.0%となった。
地域区分別に見ると、中心集落において、「ある」が63.9%と最も高く、山間地では36.5%と最も低くなった。

※全集落には地域区分不明分も含む

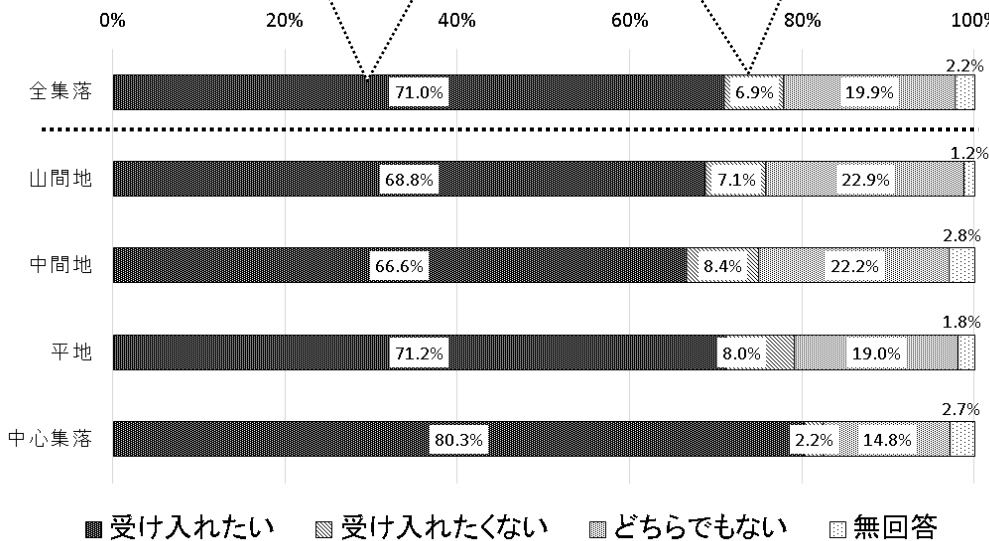
② 移住者の受け入れ可否 N=1,001

受け入れたい理由【MA】

理由	回答数
世帯が増える	512
空き家の有効活用	388
集落の担い手として期待	345
その他	14

受け入れたくない理由【MA】

理由	回答数
トラブルが心配	46
見ず知らずの人への抵抗感	21
その他	9



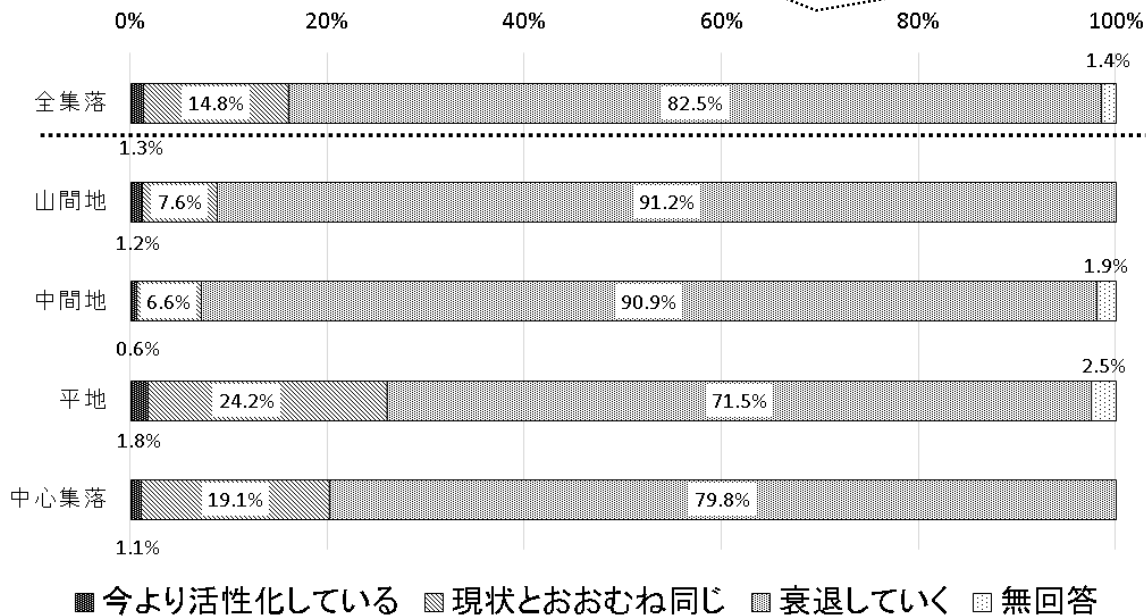
移住者の受け入れに前向きな集落が多い。

※全集落には地域区分不明分も含む

(8) 集落(自治会)の今後について

① 今後の集落の方向性(おおよそ 20 年後) N=1,001

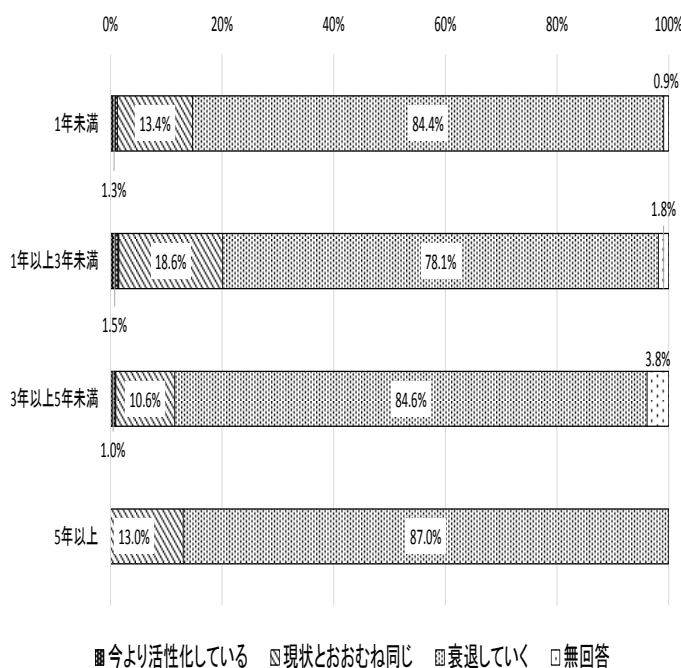
全集落では、「衰退していく」が82.5%と最も高く、「現状とおおむね同じ」が14.5%、「今より活性化している」が、わずか1.3%となった。地域区分別に見ると、「衰退していく」が平地では71.5%、中心集落では79.8%である一方、山間地と中間地では90%を超えている。



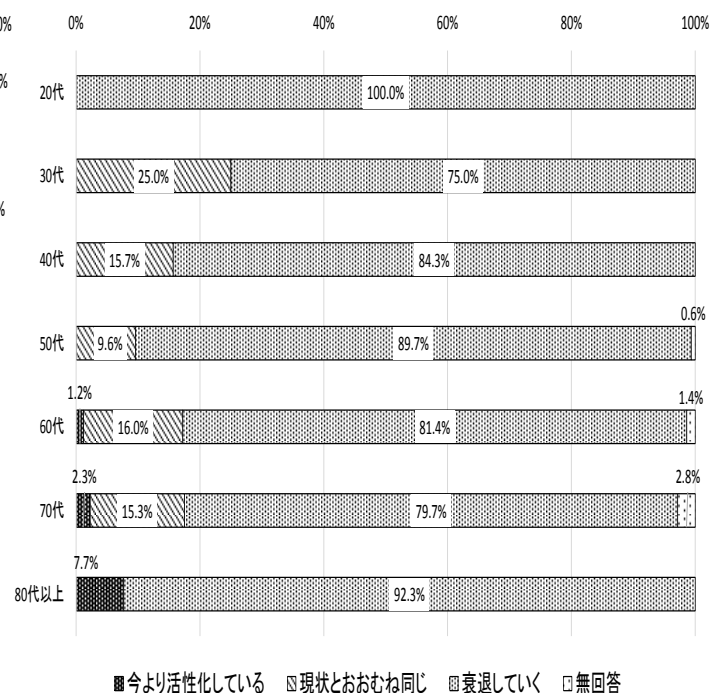
※全集落には地域区分不明分も含む

【参考(対象者別)】

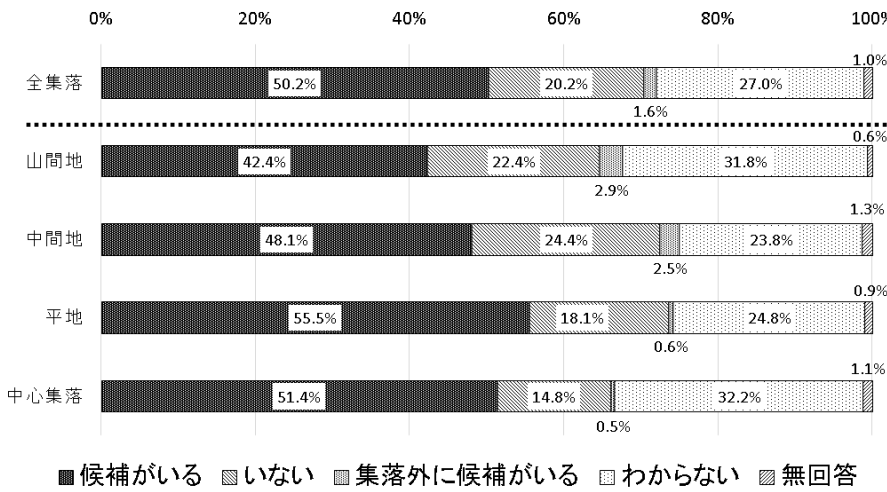
■ 自治会長等の経験年数別



■ 回答者の世代別



②集落における将来のリーダー候補の有無 N=1,001

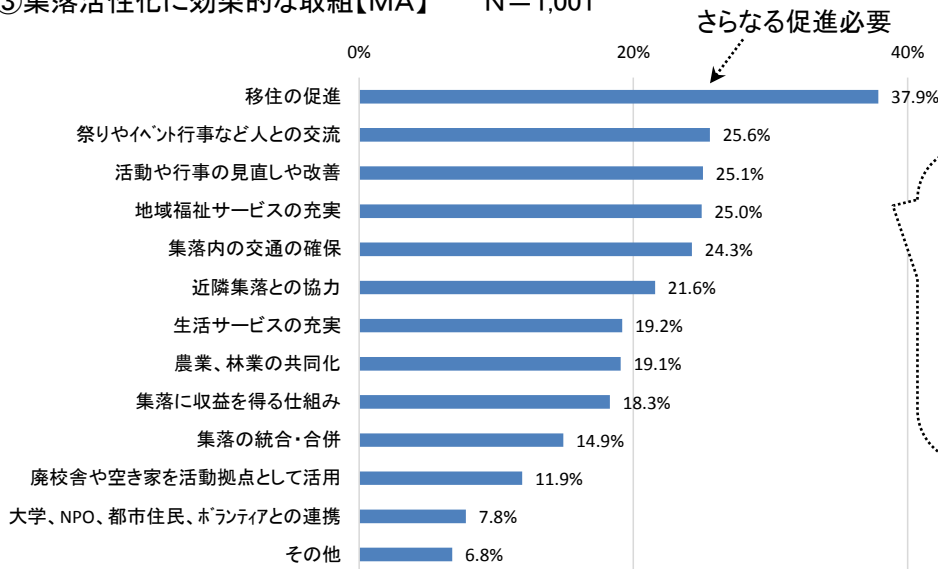


全集落では、全集落内においては、「候補がいる」が50.2%で、「いない」が20.2%となった。

地域区分別に見ると、「いない」が山間地では、22.4%、中間地では24.4%と、他の地域に比べて割合が高くなった。

※全集落には地域区分不明分も含む

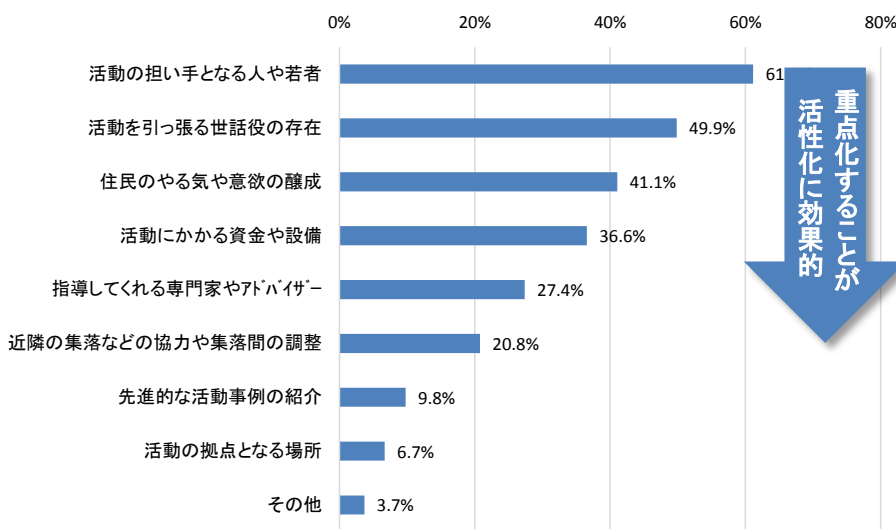
③集落活性化に効果的な取組【MA】 N=1,001



「移住の促進」が37.9%と最も多く、ついで「祭りやイベント行事など人との交流」25.6%、「活動や行事の見直しや改善」25.1%となった。

※全集落には地域区分不明分も含む

④集落活性化の取組に必要なもの【MA】 N=1,001



「活動の担い手となる若者」が61.1%と最も多く、ついで「活動を引っ張る世話役の存在」が49.9%、「住民のやる気や意欲の醸成」が41.1%となった。

※全集落には地域区分不明分も含む

【参考：自由記載欄における主な意見（一部抜粋）】

①20年後の集落の展望と処方箋等（→が処方箋）

- ・（最低限）現状を維持
→ 若い世代の意識の向上や働く場所の確保、空き家の活用による移住者の受入れ等
- ・ 伝統文化等を継承し誇りを持って暮らしていける集落。一人ひとりが尊重されながら協力し合え、活力を持てる集落
→ 課題を話し合い、その克服のため実践できる仕組みづくり
- ・ 孤独感、不安感を味わうことのない、住民交流がある集落
→ 地域の住民が近隣の人に関心を持ち、声かけや挨拶を積極的に行える人づくり
- ・ 住民間のコミュニケーションが盛んで、情報共有がしっかりととれて、自分たちの住む地区に誇りを持ち、みんなで守っていける集落
→ 地区役員による地区活動への協力依頼だけでなく、地区住民からの積極的な意見が上がり、それを地区全体で積極的に話し合い、活動を進めること。
- ・ 移住者もオープンに意見を言えて、誰の発言かではなく、内容で判断される集落。移住者が来て良かったと言ってくれる集落。住民みんながここに住んでよかったといえる集落。個人農家が田畑を守り生活できる集落
→ 話し合いや会議の場において自由で活発な発言がしづらい。このアンケートのように集落の各世帯にアンケートを実施することで、意見の集約を図るのが有効かも。アンケートは手間がかかるが、意見を集めやすくなると思う。
- ・ 町に住まいを持ち、週末や休暇の際に集落に来て農業や散策等をし、リタイア後は集落で暮らし、最期は町に戻って暮らすといった生活スタイルができる「リフレッシュ集落」
→ 空き家や空き地を活用してもらえる移住者(週末だけでも可)を積極的に受入れる。

②集落や地域における主な課題等

1. 自治会の多忙感

- ・ 超高齢化社会となり、時代は大きく動いており、小学校区単位の自治振興会レベルの諸行事見直しが必要
- ・ 住民運動会や敬老会などは、参加率やスタッフの負担を考慮し、もう開催しなくてもいいのでは。行事のために多忙というのはいかがなものか。
- ・ 行政が主催するイベントが多く、意欲のある人が疲れ気味となっている。行政の広報誌回覧等についても、文書を作るのが便利になっていることもあり、湯水のごとく配布されてくるが、簡素化して一本化してほしい。

2. 自治会の組織体制の見直し等

- ・ 課題解決への自治体の活動を支える枠組み作りが大切だと思う。自治体内での情報ネットワークの構築を進めたい。(医療機関やスーパーとの連携)
- ・ 個人情報保護法とのからみで、近所の人々のことが分かりづらくなっており、非常時のサポートは不可能。自治会役員と民生委員の緊密な連携が必要不可欠
- ・ 集落ごとの子どもが減っているので、子どもが参加する行事やお祭りを近隣地区と一緒にしてあげたい。

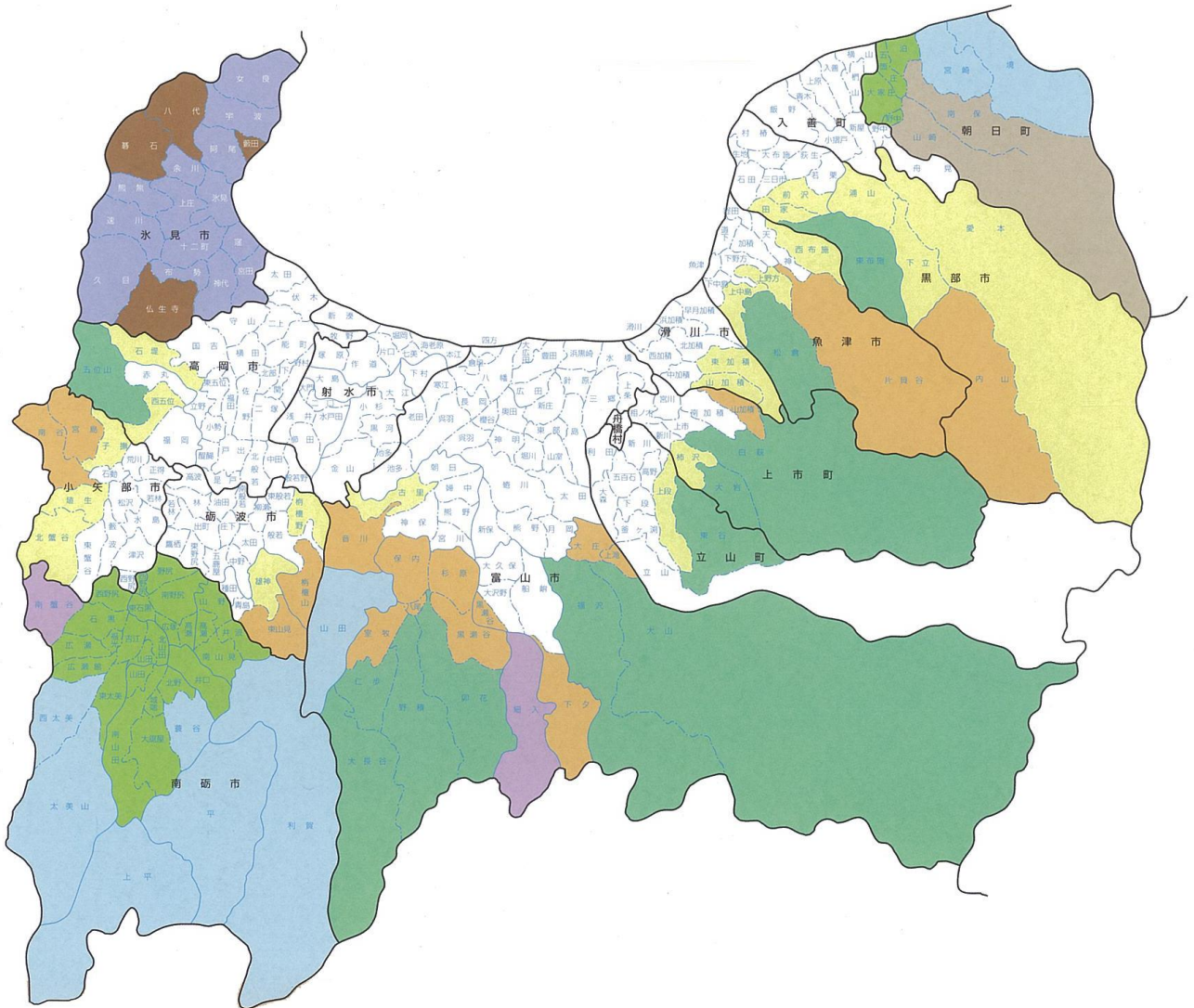
3. 行政への意見

- ・ 町の中から中学校、消防署、役場、病院、スーパーなど多くの施設がなくなったことへの不安、不満
- ・ 市中心の体育館や図書館等新築の華やかな建物ばかり造り、道路や側溝など壊れた箇所の補修の維持管理に予算が使われていない。
- ・ 県が中山間地域の維持と活性化に取り組もうとしていることに、とても力強く感じている。

4. 住民の意識・意欲の向上

- ・ 住みたいと思ってもらえる地域を創るためのアドバイスを専門家から受けたい。
- ・ 補助金に頼らず、地域でお金を産み出す事業を作りたい。
- ・ 在住者は地域にあるものを利用し、自分の地域を盛り上げる気持ちが大切

参考：富山県の中山間地域地図



凡 例	
	市町村界
	旧市町村界
	旧市町村界(S25)
	山村振興地域のみ
	特定農山村地域のみ
	過疎地域のみ
	半島地域のみ
	山村振興、特定農山村地域
	山村振興、過疎地域
	山村振興、特定農山村、過疎地域
	特定農山村、過疎地域
	特定農山村、半島地域
	知事特認地域